石神遺跡の調査（飛鳥藤原第122次）

飛鳥寺の北西に位置する石神（いしがみ）遺跡は、1981年以来14次におよぶ発掘調査により、斉明朝（655～661）を中心とした饗宴施設と考えられています。今回の調査は石神遺跡の北限とみられる東西溝（2000・2001年度に検出）以北の状況や、藤原京の条坊道路との関係を明らかにすることを目的としています。

調査区はおよそ東西30ｍ、南北20ｍで7月から調査を開始しました。しかし調査区内での湧水が思いのほか激しいために、遺構を検出するのも困難で悪戦苦闘の日々が続いています。石敷なども顔をのぞかせ始めましたが、今のところその性格は不明です。周囲の排水溝を掘り下げた際に天武朝ころの木簡や削り屑を含む木屑層の堆積を確認しており、今後の調査の進展が楽しみです。調査は10月以降も継続する予定です。

（飛鳥藤原宮跡発掘調査部　奥村直紀）

文化財関係研修の実施

発掘技術者一般研修「一般課程」

「一般課程」は6月18日から7月26日までの間、北は青森県から南の熊本県までの18名の参加者を得ておこないました。

本研修は遺跡調査における初歩的知識と技術を習得するのが目的です。多くの時間を割いた遺物の実測では、例年に比べて飲み込みが早く、順調に推移しましたが、多数の遺物を実測できた一方で、その製図に予定したよりも時間を要することになったのは計算外のことでした。

教室における遺物実測実習風景

ここでは土器の実測をしていますが、他に石器、木器、金属器、瓦を対象とする時間もあります。研修生にとっては、最もハードな期間です。

飛鳥藤原地方臨地講義のようす

臨地講義では、予め研修生が各遺跡の解説原稿を用意し、それぞれが説明した後に、講師が補うという形式をとりました。原稿を用意することは遺跡理解につながるので、この方式は今後も踏襲する予定です。

［講義題目］〈〉内は外部講師

考古学の方法（総論）〈上原真人〉、
日本考古学の諸問題（旧石器・縄文）〈佐川正敏〉、
同（弥生・古墳）〈福永伸哉〉、同（歴史時代）、
遺跡調査法、遺跡探査法、遺跡の測量、
遺跡整備の現状、文化財の保存と活用、
古墳の調査法〈和田晴吾〉、大和の古墳臨地講義、
文化財保護法と埋蔵文化財行政、陶磁史概説、
縄文土器の観察〈泉　拓良〉、埴輪の観察、
弥生土器・土師器の観察、土器の観察と実測実習、
石器の製作技術と観察、石器の観察と実測実習、
木器の観察と実測実習、金属器の観察と実測実習、
遺構・遺物の保存科学、環境考古学概説、
古建築概説、法隆寺臨地講義、
飛鳥藤原地域遺跡臨地講義、瓦の観察と実測実習、
写真撮影概説、報告書作成概説、遺物図版割付実習

（埋蔵文化財センター　西村　康）

発掘技術者専門研修「文化財写真課程」

「文化財写真課程」は、8月20日から9月20日の日程でおこないました。写真のイロハから始め、外注・内部処理を含めて業務に役立てて頂こうという研修です。

例年、二桁の参加者がいましたが、本年は参加者数が7名と講師陣の総勢よりも少なく、まさに「マンツーマン」、中身の濃い研修となりました。とはいうものの、長期の研修は派遣が難しい場合も多く、考え直す検討が必要です。